

『第10回伊賀市非核平和推進中学生広島派遣事業』



市内の各中学校の代表として、生徒10人を8月5日から2日間広島市へ派遣しました。参加した生徒は、それぞれの学校の生徒一人ひとりが平和への祈りを込めて折った千羽鶴を原爆の子の像へ捧げました。また、平和記念式典への参加や平和記念資料館の見学、被爆体験講話などを通じて、69年前に起きた人類史上最初の原子爆弾による悲惨な現実を、見て、聞いて、肌で感じて、非核平和への思いを新たにしました。その内容を生徒のレポートからお伝えします。

広島派遣：平成26年8月5日(火)、6日(水)

■行程

- 5日 ～ 被爆体験講話聴き取り
原爆ドーム見学
原爆の子の像へ千羽鶴捧げ
広島平和記念資料館見学
- 6日 ～ 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式(平和記念式典)参加
平和演劇鑑賞

【被爆体験講話聴き取り】

◎13歳のとき爆心地から約2km離れた軍関連施設で作業中に被爆した、森田節子さんから話を伺いました。



森田さんから話を聞かせていただきました。原爆が一瞬にして色々な物を奪ってしまうおそろしさをあらためて知りました。「友達を大切にするのは生きていくために必要な事」という言葉がとても印象に残りました。

崇広中学校 山田 怜奈さん



被爆体験講話を森田さんから聞かせていただきました。川にゴミのように遺体が流れていたという話が印象に残っています。多くの命を奪った原爆を許せないし、二度と同じ悲劇を起こしてはいけないと誓いました。

霊峰中学校 西條 夢人さん

【原爆の子の像】

◎市内の中学生一人ひとりが折った千羽鶴を捧げました。



原爆の子の像へ行ってまず目に入ってきたのは、平和という言葉です。千羽鶴が色とりどりにたくさん捧げられている中にある平和という言葉は、そこに立った人だから響く何かがありました。鐘を鳴らし平和を祈りました。

緑ヶ丘中学校 高野 里紗さん



【原爆ドーム】

◎原爆の惨禍を伝え、核廃絶と人類の平和を求める誓いのシンボルである原爆ドームを見学しました。



原爆ドームは悲しみを思い出すものだが、後世に残すことで、原爆の恐ろしさを訴え続けられる大切な建造物だと思います。僕も原爆がもたらした悲劇と、戦争の経験を生かして、平和の大切さを世界に訴えたいです。

島ヶ原中学校 峰 竜矢さん



【広島平和記念資料館】

◎原爆の惨状を示す写真や資料を見学しました。



資料館には沢山の衝撃的なものがありました。どれも本当にあった事なんだと思うと、怖くてたまらなくなりました。見学しながらその当時の人々の事を考えたら、二度と戦争をおこしてはいけないという思いがよりいっそう強まりました。

城東中学校 吉田 菜子さん



原爆を広島に落とした人が後に、「日本は戦争を終えられ幸せだ。」と言っていた。それが間違いだということに、資料館に行って改めて思いました。今回感じた、原爆の恐ろしさを、被爆者と同じ気持ちで伝えていきたいです。

阿山中学校 堀川 出帆さん

【平和記念式典】

◎広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に参加しました。



雨がいっぱい降っていたのに、式典には世界中の人々が参加していました。そして、世界中で平和を願っていました。これからも平和な世界を作っていくために私たちは、一人の人間としてもっと原爆について勉強するべきだと思いました。

大山田中学校 川極 幸村さん



多くの人々が参加した式典で、原爆が起こした悲しい事実を絶対に忘れてはいけないと思いました。亡くなった人々のためにも、僕は、平和を求め、被爆者が求めた未来を、しっかりと作っていくべきだと思いました。

上野南中学校 松生 侑莉さん

【広島市立舟入高等学校演劇】

◎広島市立舟入高校による創作劇「さんげ」～原爆詩人 正田篠枝の手記
「耳鳴り」より～を鑑賞しました。



演劇の中で「少年の遺影の前のトマト」という話があった。8月6日の朝、トマトを食べるのを楽しみにして学校へ行くけれど、原爆でトマトを食べられなくなった。少年と母親の後悔がとても伝わってきた。原爆は多くの人を狂わせた。

柘植中学校 西尾 晃太さん

劇は、原爆の惨状を歌に詠み多くの人に伝えようとした正田篠枝さんという人についての話だった。

この劇を通して、命をかけてまで原爆の恐ろしさを伝えようとした正田さんの意思を受け継ぎたいと感じた。

青山中学校 中尾 光佑さん